

医療消費者に対する情報支援-1

～医療機関情報の提供～

宮原柔太郎^{1,2)} 岩澤まり子²⁾

1) 筑波大学図書館情報専門学群 2) 筑波大学大学院図書館情報メディア研究科

【はじめに】

今日、時間外受診の増加に伴い、小児救急診療の逼迫が社会問題となっている。状況打開のため、医療消費者に向けた情報提供の取り組みが始められている。例えば、日本小児科学会はパソコンサイトで「子どもの救急」を、行政は休日診療の当番医の情報等を提供している。しかし、これらの取り組みは、別々に行われているため、救急時には使用しにくいなどの課題が残されている。そこで、子どもの様子をみた保護者が、救急受診の必要性や医療機関に関する情報を簡単に入手できるようにすることは、保護者に対する情報支援として有用であると考え、携帯電話から利用可能な情報支援システムを試作した。本研究ではこのうち、医療機関に関する情報を提供する方法について検討した結果を報告する。

【目的】

本研究は、診療を希望する時間や救急受診の必要性に応じて医療機関を検索し、情報を入手できるようにすることを目的として、携帯電話サイトから医療機関に関する情報を提供する方法を提案する。

【方法】

つくば市に所在し、小児科を有する 49 の医療機関を情報提供の対象とした。はじめに医療機関の敷地内にある看板および Web サイトを調査し、医療機関に関する基本的な情報（医療機関名、所在地、電話番号、診療科目名、時間外診療の有無、往診の有無）を収集した。このうち診療時間や休診日などの情報を整理し、診療タイムテーブルを作成した。診療タイムテーブルを基に、診療日時を検索キーとした検索が可能な、また携帯電話から利用可能な医療機関選択支援システムを試作した。なお、システムの構築には PHP を、データベースには MySQL を用いた。

【結果および考察】

本システムにより、診療日時及び往診等の条件から医療機関の検索が可能になった。また、携帯電話から利用できるようになり、パソコンを使用する既存のシステムと比べ、より広範囲の状況において利用可能になったと考える。本システムと、救急受診の必要性に関する情報を提供するシステムとを連動させることにより、救急受診の必要性から受療可能な医療機関の選択までを携帯電話を使って行うことができるようになり、社会問題化している小児救急医療体制に関わる問題解決への効果が期待できる。